



京都社会人大学校

北近畿校通信

第56号 2024年8・9月

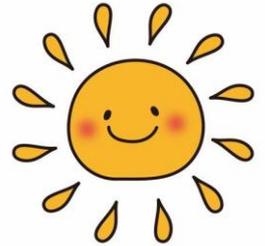
北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

さあ 2024年度後期講座が始まります!

「ちょっと難解、知ると楽しい」 夏の疲れた脳に刺激を!



残暑お見舞い
申し上げます

厳しい猛暑日の連続、初めての「南海トラフ地震臨時情報、大地震注意」の夏。スーパーから米が消え、お米屋さんにも「売る米がない」とか。8月は無理せずゆっくり!のための休講の月でしたが、「なんだか不安、体も辛いし」という方も多かったのではないのでしょうか。自然環境も社会情勢も極端なことが多くて、なんで?どうしたらいい?...この社会人大学の講座で説明できたらいいなあ。

さて、今年度の後半の講座が始まります。楽しみに待っていただいている方が多いと嬉しいです。講師陣も充実した講座にと、準備してお待ちしています。



前半が終わったけど、「申し込んだ頃と都合が変わってほとんど出席できていない」という方、いらっしゃいませんか? 北近畿校では、休んだ講座の振り替えて、無料で他の講座を受講できる制度をとっています。決して安くはない受講料を払っていただいています。大変もったいないので、他の講座でちょっと関心あるテーマの回があればぜひ参加してみてください。新しい「あっ、面白い」に出会うかも。

開講日、会場の

変更にご注意ください

7月の通信で、後半の日程・会場をお知らせしています。年度当初より変更になっている講座がありますのでご注意ください。

以降の変更はわかり次第お知らせするように努力しますが、時間の余裕がない場合は、該当講座の受講生のみお伝えします。振替受講や飛び入り受講をご希望の場合は、変更がないか必ず事前に事務局(☎080-2511-1751)にご確認ください。または、京都高齢者大学ホームページから「北近畿校トップ」のページをご覧ください。



ひとこと感想から

今年度は会場変更がなく、運転免許返納者には大変うれしい!

(寄席芸鑑賞講座)

特に寄席芸鑑賞講座は受講生が多く、席数に余裕のある会場を押さえるのが困難でご迷惑をおかけしています。実は福知山は会場確保激戦区! より広い会場があれば市民交流プラザから変更することもあります。駅から遠くて困る場合はお気軽にご相談を!

7月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも
あります。ご了承ください)



◆時事問題講座 7月2日

「闇バイトの実態・被害と加害の両面から」 講師:細田梨恵氏

闇バイト関連の事件は報道等を通じて見聞きしていますが、事件の背景・本質について丁寧に解説されることは多くありません。今回の講座は、なぜ若者が闇バイトを通じて詐欺事件に関わってしまうのか、事件の表層だけでなく、その後ろにある実態を知る機会となりました。

若者がどのように闇バイトに手を出し、犯罪に加担するのか。典型的な流れがあるといいます。簡単に高額報酬が欲しい若者はSNSで「高額報酬」のバイトを探す(簡単に見つかる)→応募にあたり個人情報を入力→個人情報を盾に脅迫的に犯罪に誘導される→逮捕されるまで抜けられなくなる。

犯罪の首謀者は最初から「捨て駒」としてのバイト応募者を探しており、実行者が逮捕されると次の若者を探すだけ。首謀者は自分の安全を守りながら稼ぐために「捨て駒」が不可欠であり、闇バイト募集が次々に現れるという構図になっていると。

若者が安易に闇バイトに関わってしまう理由として、金銭的な困窮、SNSへの依存、いわゆる「世間を知らない」などが考えられるとも。

犯罪に加担した加害者の若者は視点を変えると「被害者」でもあります。このような事件をなくすためには、貧困を生み出さない社会の実現が重要だと認識させられました。

社会がこわれていることが原因と思う。それら社会現象のその根底には、やはり貧困があると思う。やはり政治の問題があるのではないか。モラルの崩壊もある。教育と政治の問題であると思う。

自分も騙されないように気を付けようと思いますが、孫(高校生)が犯罪に巻き込まれるんじゃないかと心配です。

◆寄席芸鑑賞講座 7月11日

「浪曲についてのお話を聞き浪曲を楽しむ」

講師:真山隼人氏 沢村さくら氏

講座の前半も楽しく引き込まれました。三味線も合いの手もこれほどゆっくりしっかり見聞きすることはありません。すばらしい。後半の浪曲、今年も見ごたえ、聴きごたえがあり感動でした。

浪曲の歴史について学びました。浪曲は江戸時代から存在していて、武士道を甦らせる演説スタイルになり、浪花節やうかれ節とも言われたりしましたが、大正8年に浪曲になったらしいです。現在では浪曲師の数が非常に少なくなっており、さらに少ないのが曲師だそうです。

浪曲は師匠から習ったものから自分のオリジナルを出すことを求められる自由な芸能ですが、独特の決まり事が「上に上がると下がる。下に下がると上がる。」という規則性がありますと、ユーモアたっぷりで説明をされ笑い溢れる講座でした。節や啖呵、きざみとか専門的な言い回しに曲師さんとの相槌や掛け声がお互いの心の中の合図を汲み取るコラボレーションには驚きでした。

真山隼人さんと沢村桜さんによる浪曲も披露され、参加者はその迫力を堪能しました。最後の質疑応答では、浪曲で答えていただける、どんなことも浪曲になるのが魅力で、これが浪曲の醍醐味でしょうか、笑いも感動も湧いてきて拍手拍手の講座でした。



浪曲はラジオでしか聞いたことがなく(子供時代に)、子供のころ浪曲が始まると「しんきくさいなあ、もっと短くしゃべったらいいのに」と思っていました。でも今日の浪曲の歴史を聞いたり、シテ(シャミセン)の重要さを教えてもらって浪曲の面白さがわかった。

◆写真講座 7月16日

「4・5・6月の振り返り」

—作品を見ながら技術向上のポイントなど解説—

講師：四方智基氏



今回は5月6月の撮影会でみなさんが撮った写真の合評会です。スクリーンに映し出されたそれぞれの写真を見ながら先生のコメントをいただきました。「子どもの笑顔」の写真が先生のパソコンに取り込まれておらず、スクリーンで見ることができませんでした。先生が受講生にプリントアウトして下さっている写真を机に並べ、互いに見て回りました。他の人が撮った写真はとても上手に見え、レンズはどんなの?と聞いてみたり、構図をマネしたくなったり、楽しいものです。

番外編で、11年振りに開催された8月の福知山の花火大会に、先生から撮影会の声がかかりました。少数参加でしたが、講座参加だけでは撮影できないテーマに挑戦となりました。自主活動でも安全面など十分気を付けながら、交流していけたらと願っています。

みなさんの写真を見せていただいて、とても勉強になります。同じ場所で同じものを見ても、それぞれの完成の違いで違う写真。面白いです。

次はフィルター使用に挑戦したい!

「こんな写真を自分も撮れたら」と思いながらみなさんの作品を見せてもらいました。まだカメラの設定を自由自在にできないし、技術の差を感じます。

◆歴史講座 7月17日

「韓国・朝鮮の近現代史の捉え方」

講師：井口和起氏



これまでの自分の韓国・朝鮮に対する認識がかなりあいまいなものだったことがわかる。なお一層勉強しなくてはならないと思います。

最初に韓国の高校歴史教科書の記述内容についての話があった。日本の教科書では現代史(戦後史)の記述が近代史(幕末から敗戦まで)の3分の1程度しかないが、韓国では大韓民国の発展に関する記述がそれ以前の各章とほぼ同量であり、現代史に重点が置かれているとのこと。江華島事件から日韓併合までが約9ページ、日本の植民地時代が約12ページで近代史全体の約15%強に過ぎず、ことさらに「反日教科書」とよぶほどのものとはいえないようだ。文在寅政権以後のニュースで従軍慰安婦や強制労働の問題がしばしば蒸し返されているのを見聞きしていたので、先生の指摘は少々意外な印象で、目からウロコというか認識を新たにしました。

次に1990年代から2000年代の歴史学会の動きについての話があった。この部分は難解でよく理解できなかったが、要は日本にひどい目にあったという「植民地収奪論」、日本が残した良い部分を評価しようという「植民地近代化論」、二項対立的視点を超えて植民地時代をありのままに見るとする「植民地近代性論」などが論議されているようだ。いずれにせよ、「民主革命」の挫折、冷戦構造の崩壊、政治の右翼の流れのなかで登場したつくる会の「新しい歴史教科書」に対する驚きと警戒心、財閥支配・保守勢力の残存と反撃といった時代背景のなかで、韓国の社会や歴史がきわめて複雑であり、単純化して一面的に捉えられるものではないということがわかった。

最後に犠牲者意識ナショナリズムについての言及があった。韓国での歴史出版物がイスラエルとパレスチナの対立とも相まって注目を集めている。記憶の専制は、犠牲者だけが過去を正確に記憶し、評価できるという当事者意識を生み、それは外部からの批判的アプローチを拒むことによって、犠牲者意識ナショナリズムの排他性を擁護する認識論的な武器となるという一文にはつくづく考えさせられた。

日本の側から朝鮮史を覗いていたことを強く感じた。歴史を理解することの難しさを、他者を認識することの困難さを強く思った。平和を考える時、交流以外に道はなしかな?

犠牲者意識、ナショナリズムに衝撃を受けました。なぜ戦争をやめさせられないのかと常に思っています。ヒントをいただきました。

◆漢字学講座 7月26日

「動植物の漢字」 講師：久保裕之氏

動物：形から漢字になった「角」は動物の角（つの）の形からきている。馬、虎、犬、鳥、亀なども形から変化していった。

鳴き声から漢字になった「猫」はけものへんに苗・・この苗は「ミヤオ」という鳴き声からきている。

「狐」もけものへんに瓜・・この瓜は「コア」という鳴き声からきている。

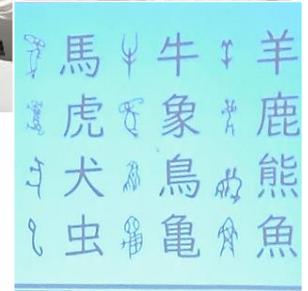
「鶏」・・鳥は形を表しにくいので鳴き声になった。左の字は「けっ」という鳴き声からきている。（鳴き声は国により異なる）

「集」は木の上にとりがたくさんいるからあつまるという意味になった。

「解」はいけにえのために牛を刀でばらばらにするからかいという意味になった。

植物：「木」は形から漢字になった林は木が2つ、森は木が3つ書き表している。3つ木があるのではなく、多いという意味である。

「禿」は、山に樹木がないという意味で「はげ」という意味ですが、先生はご自分の後ろ姿の写真をアップされて「私は漢字のためなら何でもします」と言われたのが、ユーモアたっぷり、申し訳ないですが、笑ってしまいました。



「漢字って面白い」これを実感するお話は、本当に楽しい。昔から日本人は、素晴らしい知恵とユーモアあふれる思いつきで、新しい漢字を生み出している。なんて素敵な事でしょう。

動植物の漢字は親近感があって面白かったですけど難解。夏のポーっとした頭にシゲキです。

今日は、とても楽しかったです。孫にも話してみたいです。

草かんむりと牙で、何で「芽」(め)なんですか？



以前来たことはありましたが今回は何か所もじっくり見せてもらい、大変良かった。

一定の地域で様々の分野の方に専門的な話をしてもらいたいなと思いましたが、地元学の方が大原地域の方の参加があればさらにいいですね。

◆北近畿探訪講座 7月24日

三和の大原神社周辺の地層・魚・植物を探訪

講師：小滝篤夫氏 ほか

大原神社、産屋、岩石、チャート、断層（三峠断層）、それから高木のスギ、イチヨウの木をみて講義を受けながら、地域を回りました。今回は、地学関係の小滝先生のほか、植物の京極先生、動物・魚の山段先生、鳥類の大槻先生、地元の地域史の吉田先生と、多彩な陣営で大原の自然を語っていただきました。途中で傘を開かなければならない時間もありましたが、2時間では足りないくらい多くの歴史や風土がありました。

今回の三峠断層の地形遠望は、長い時間での森・林の形成や風化などで、断層の鞍部がゆるやかに見えますが、小滝先生から説明を受けて実感できるものでした。淡路島の野島断層は現場に屋根をつくって保存されていますので興味のある方は見学することができます。

もう一つ珍しいことにも出会いました。なんと花の咲いている竹を京極先生が発見し紹介されました。20年～50年に一度しか咲かないと言われている花に、1本ですが出会ったのです。

また、アカザなどの魚の採集のため仕掛けなどを集合前から事前に準備され、私たちに教えていただいた山段先生にも感謝です。カジカとともに、清流が保たれていてこそ魚だそうです。

今回の探訪は駐車場が狭く（運営委員会の見通しが少し甘かったです）、受講生のみなさんにはご不便をおかけしました。